

新しい時代の外国語教育の研究

Studies of Pedagogy of Foreign Languages in the New Era

総括研究員：七尾誠

分担研究員：東好男 中村茂裕 福田美智代 宮田実

本研究グループは、教養部に所属する「言語文化科目」担当で構成されている。本学においても、また全国の大学・短期大学においても、いわゆる外国語教育に関しては大幅なカリキュラムの組み替えが近年顕著である。しかしながら器の部分の改革は行われていても、内容面とくに「何を如何に教えるか」については掘り下げた理念なしに各教員が、いわばてんでバラバラに教育に携わっているのが現状であると言わざるを得ない。この共同研究は、そのような現状を認識し、かつその現状打破にいくらかの貢献をはたそうという目的のもとに行われている。以下に列挙するのは、各研究員の平成6年度研究報告のレジュメである。

東 好男

外国語教育、英語授業の目的、方法については時代と共にそのズレと修正をこれまで繰り返して、そのカリキュラム、教材、外国人教員との共同作業、等々について問題点は多い。現在この外国語教育にかかわる問題について、全国1100大学のそれぞれが今回の大学改革と相俟って試行錯誤の中にあるとあってよい。真に現時点で求められている外国語教育へのニーズを考えると、少なくとも今後10年間の本学の外国語教育内容への一つの指針を構築しなければならない。具体的な各大学での外国語教育のカリキュラムを通して、昨年頃からやっとその事例についての報告を見ることが出来る。

この共同研究の初年度においては、第一に現在の他大学での新しい外国語教育（英語）の具体的実践例を、大学英語教育学会（33回大会）を中心に入手した。第二に現在ある視聴覚教材の中で際だって魅力的な手法による教材を探し、その内容を吟味した。第三に最新の光ファイバーを利用したマルチメディアによる英語教育への取り組みを通して、その教育の展望を概観した。今年度は第三のマルチメディアによる英語教育の内容をより具体的、実践的に模索していく予定である。同時に、現在の英米語圏への文化研修の形態を詳細に調査し、その研修が言語文化科目としての英語教育に如何に効果的に反映させられるか、を多面的に考察するつもりである。

中村 茂裕

外国語教育において、コミュニケーションに重点を置いた教育を行う必要性が最近とくに叫ばれている。この場合、コミュニケーションとは、「聞き話す」というオーラルコミュニケーションのことであるが、ただ単に機械的に「聞き話す」受信型の外国語教育は、すでに「LL」という名のもとに行われているものである。これまでの「LL」教育の問題点は、学生が参加するという要素が欠如しがちであるという事実である。言語・映像コミュニケーション

ンとは、このような学生参加の要素を、自主作成の映像により補填し、総合的な発信型コミュニケーション能力の育成をめざす外国語教育である。平成6年度は、「ドイツ語LL」において言語・映像コミュニケーションによる授業を実施したこの授業では、平成6年度夏期ドイツ語海外研修において取材した言語・映像資料を併せて使用した。

七尾 誠

10年以上前から関西地区のフランス語教員を中心にして年間3回開催されている「フランス語教育を考えるつどい」の運営に平成6年も携わり、新しい教材研究・具体的な教授法研究・成績評価のさまざまな方法・コンピュータを使用した外国語教育の研究を学外で行った。また、CD-ROM等による新しい教材の調査も行った。英語に関するこうした教材はかなり充実してきているが、フランス語教育に関して言えば現状はまだまだ発展途上にあるとしか言えない。今後もこのような調査・研究を行っていく予定である。

福田 美智代

平成3年7月に大学審議会答申および新大学設置基準が公示されて以来、大学教育の抜本的な見直しが行われ、各大学でカリキュラム改正などの改革が進んできている。大学によって、掲げている目標も取り組み方も実に多種多様である。従って、それぞれの大学の教育理念、あるいは、教育目標に従って自由に外国語教育のプログラムを組むことが最前の方法であると考えられている。その際に外国語教育の充実を図ることが重要であるが、どのような方向での充実が可能であるかについて検討し、それを示すことは、外国語教育に携わる者の責務と言える。全国の他大学の改革の具体的な実践例については、大学英語教育学会、第33回全国大会などで入手するようにつとめた。今後とも継続的にフォローしてゆきたい。

宮田 実

『大阪産業大学論集人文科学編第83号』で「受信型英語教育から発信型英語教育へ」というタイトルの研究論文を発表した。この論文で、これまでの受信型英語教育の歴史を振り返り、現在進行しつつある発信型英語教育への変化とそれを妨げるさまざまな要因を探り、発信型英語教育の具体的教授法について考察した。また、1994年の夏にカナダのブリティッシュコロンビア大学で開催された4週間の英語教授法セミナーに参加した。世界各国から参加した英語教員との各国の英語教育事情についての意見交換やさまざまな英語教授法についての討論を通して、今後の日本における英語教育の在り方を考える上での大きなヒントを得ることができた。